



神戸情報大学院大学(KIC)・独立行政法人国際協力機構(JICA)・
NPO法人ARUN Seed・Peloria Insights 共同開催 ウェビナーシリーズ

「ICT x 平和構築 x 社会的投資」が創り出す新しい世界

概要:

2020年初頭から短期間で世界中で拡大した新型コロナウイルス「Covid-19」は、その後も猛威をふるい続け、終息への道筋はなかなか見えてこない。「見えない敵」と戦うために、人々は社会経済活動の抑制を強いられ、その影響は観光に代表される経済の停滞のみならず、教育や治安など多岐にわたり負の影響を及ぼしている。

情報通信技術(ICT)を活用した遠隔教育が世界各地で一気に広まり、ウェブ会議も日常の風景になったが、通信の整備状況やデバイス保有の有無が、貧富の差を拡大させている。当事者同士の対話が重視される平和構築分野においても、感染予防による行動の抑制によってプロセスが停滞しがちである。開発途上地域にとって最も重要な雇用機会を創出する重要なアプローチである社会的投資も、国際的な人流の停滞によって新たな局面を迎えつつある。

他人との接触機会を低減させ得るICTの積極的な利活用は、感染症のような「見えない敵」との戦いの中で効果を発揮する教育や保健分野のみならず、国境を越えて非伝統的に雇用を創出し得る可能性からも、これまで以上に大胆に試行されるべきである。そこから新たな、持続可能性の高い国際開発アプローチが創出され得る。

本ウェビナーシリーズは、このような問題意識を共有する実務者グループが国際開発学会(2020年12月)において「次世代の平和構築—ウィズ コロナの時代の平和構築のあり方、人工知能の活用、社会的投資の役割」と題した企画セッション(発案者:坂根宏治)を行ったところ、多方から様々な肯定的フィードバックを受けたことを背景に、ウェビナー参加者と広範に情報を共有しながら議論を深堀することで、学術の枠にとどまらず社会的に実証・実装していく可能性を検討する道筋を探ることを目的として開催する。

実施方式: オンライン(Zoom)による多地点接続

実施時期: 2021年6月9日(水)(日本時間17:00~)より、毎週水曜日同時刻定期開催

参加方法: 以下URLより事前登録(本件に関心あれば誰でも参加可能)

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfCbD2LWQ2qUmp5wTrVO4bLiEYDPP83V72kmUUf3JM7cb-POA/viewform>

参加費: 無料

使用言語: 日英 (ただし当面、資料は英語、説明は日本語で行う予定。英語話者からの質問には各講師が英語で対応予定)

開催内容(予定):

第1回 2021年6月9日(水)17:00~18:00(日本時間) 『ICT x 平和構築 x 社会的投資の可能性』

- 1 「本ウェビナーシリーズの概念的枠組み/コロナ禍下のICT効用」 内藤智之(KIC)
- 2 「スーダンにおける平和構築の現状と、ICT、社会的投資の可能性」 坂根宏治(JICA)
- 3 参加者とのオンラインQ&A

第2回 2021年6月16日(水)17:00~18:30(日本時間) 『平和構築 x ICTの可能性』

- 1 「Peace Techという新たな潮流」 大石彩夏(Peloria Insights)
- 2 「Remote Sensing and AI for Peacebuilding」 エルハム・グメヘイ(Space4good)
- 3 「国際機関のTech活用トレンド/世銀Tech & Innov. Lab」 川嶋雄作(世界銀行)
- 4 オンライン参加型ブレイクアウト・セッション / オンラインQ&A



第3回 2021年6月23日(水)17:00~18:00(日本時間) 『平和構築 x 社会的投資の可能性』

- 1 「(仮題)コロナ禍における社会的投資の現状と課題」 功能聡子(ARUN)
- 2 「難民の自立にビジネスと社会的投資が果たせる役割」中村恵理(JICA)
- 3 参加者とのオンラインQ&A

第4回 2021年6月30日(水) 17:00~18:00(日本時間)
パネルディスカッション/参加者からの質問回答セッション
『平和構築 x ICT x 社会的投資』社会実装に向けて

モデレーター 内藤智之(KIC)

パネリスト 坂根宏治(JICA)、大石彩夏(Peloria Insights)、功能聡子(ARUN)、
中村恵理(JICA、慶應義塾大学院)、ほか有識者(調整中)

第5回 2021年7月7日(水) 17:00~18:00(日本時間)
特別セッション 『パレスチナにおけるICT x 社会的投資』

- 1 「パレスチナの現状とJICAの取り組み」川嶋淳司(JICA)
- 2 「(仮題)ガザ地区におけるIT企業モンスター・ラボ社の挑戦」中山和樹(Monstarlab)
- 3 「(仮題)ガザ地区の現状とICT企業の活動」(現地ICT企業:調整中)
- 4 参加型ディスカッション「持続可能なパレスチナ支援:ICT x 社会的投資の可能性」

第6回 2021年7月14日(水) 17:00~18:00(日本時間)
特別セッション 『フィリピンにおけるICT x 社会的投資』

- 1 「開発途上国における製造DX事例:3DプリンタxAI技術を用いた義足製造のイノベーション」
徳島泰(インスタリム)
- 2 (現地ICT系社会起業家:TBC)
- 3 参加型ディスカッション「持続可能な弱者支援:ICT x 社会的投資の可能性」



講師(登壇順):



内藤 智之

神戸情報大学院大学 副学長・特任教授

国際協力機構(JICA)、外務省(出向)、世界銀行などを経て2021年4月より現職。専門はデジタルエコノミー、ICT for SDGs。



坂根 宏治

国際協力機構(JICA) スーダン事務所長

JICAカンボジア課長、平和構築室長等を経て、今年2月より現職。ブラッドフォード大学平和学修士。国際平和構築協会理事。



大石 彩夏

Peloria Insights プロジェクトマネージャー/
政治アナリスト

日本IBM、米国平和研究所PeaceTech Labを経て現職。フルブライト奨学生としてジョージタウン大学紛争解決学修士課程を修了。専門はAIを用いた紛争予測。



川嶋 雄作

世界銀行グループ
シニア・イノベーションオフィサー

国家公務員、米国留学(ハーバード・ジョンズホプキンス)、世界銀行コンサルタントなどを経て現職。米国ワシントンDCの世界銀行本部では、先端技術を活用した国際開発プロジェクトのマネジメントやMLモデル開発を担当。

エルハム グメヘイ

Space4good
リモートセンシング・機械学習サイエンティスト

慶應義塾大学にて地理空間情報科学博士号取得後、2019年より現職。

リモートセンシング技術及び機械学習を活用した洪水監視プロジェクトや平和構築・安全保障関連のプロジェクトに従事。



功能 聡子

ARUN合同会社代表
NPO法人ARUN Seed 代表理事

NGO、JICA、世界銀行等の業務を通して、カンボジアの復興・開発支援に携わる。カンボジア人の社会起業家との出会いからソーシャル・ファイナンスの必要性と可能性を確信し2009年ARUNを設立。



中村 恵理

国際協力機構(JICA)/ 慶應義塾大学大学院

10年以上にわたって南スーダン、ソマリア、ルワンダ等の紛争影響地域のプロジェクトマネジメントに従事。現在は、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科にて紛争影響地域における民間セクターの役割について研究中。



川嶋 淳司

国際協力機構(JICA) パレスチナ事務所

2017年JICA入構。専門は中東研究。共著に『日本の国際協力中東・アフリカ編』(近刊)、『平和学から世界を見る』等。



中山 和樹

株式会社モンスター・ラボ
バン格拉デシュ拠点、タイ拠点 代表

青年海外協力隊、日系企業の海外拠点立ち上げなどを経て現職。モンスターラボにて海外拠点のマネジメントに従事する傍ら、パレスチナ・ガザ地区に開発チームを立ち上げるプロジェクトをリード。



徳島 泰

インスタリム株式会社
代表取締役CEO

世界初のフル3Dプリント義足を実用化したスタートアップであるインスタリム社を2018年に日本とフィリピンで同時創業。独自開発の3DとAIの技術で、世界の1,000万人以上に、高品質で低価格な義肢装具を提供している。